

# 漢方外来概要

## 再評価されている漢方薬医療

漢方薬治療は一人ひとりの体質や特徴を重視し、心と体は一体であることを前提とした全人的医療です。

病気を一つの器官や部分の異常として捉え、それを取り除く西洋医療とは違うアプローチを持つものです。

日本では早くから健康保険の適用となっていますが、20世紀後半から漢方薬のすばらしさが改めて再評価され、今日ではすべての大学医学部において漢方医学教育が実施され、全大学病院で漢方薬が処方されています。

## 漢方薬医療の特徴

### 《漢方薬には得意分野・不得意分野があります》

西洋薬(新薬)と漢方薬には、それぞれ得意とする症状や病気があります。西洋薬(新薬)の多くは有効成分が単一で、切れ味鋭く即効性があるため、細菌を殺す熱や痛みを取る、血圧を下げるといった一つの症状や病気に対する直接的な治療に適しています。一方漢方薬は、いくつかの生薬を組み合わせで作られた薬なので、慢性的な病気や全身的な病気の治療など、複雑多彩な病状に効果を発揮します。

### 《西洋薬(新薬)と漢方薬のそれぞれの長所を生かした治療法が理想的です》

当院では、全ての病態に対して全て漢方薬で治療をしていくわけではありません。前述のように、漢方薬には得意・不得意がありますし、西洋薬(新薬)も長所・短所がある為、それぞれをうまく組み合わせることで個々の人にとって最も適した治療を見つけ出していくのが理想的な医療です。

西洋薬(新薬)による治療の補助として漢方薬を併用することによって、より効果がみられる場合や、長年の西洋薬治療でも良くならなかった症状に対して、角度を変えて漢方薬治療を試すことにより著しい改善を得る場合もあります。

また、いくつかの症状が同時に起こっている場合に、年々どんどん薬が増えてしまっていくことがあります。このような場合、漢方薬を組み合わせることにより、薬の数を減らすことができます。

このように臨機応変に漢方薬と西洋薬(新薬)を使い分けることにより治療方法の幅が広がり、それぞれの患者さんに合った究極の治療法が見出せることとなります。

### 《漢方の「証」とは》

漢方薬は一人ひとりの個人差を重視して使い分けています。そのため漢方薬は病名で診断することだけでなく、患者さん一人ひとりの体質や病気の状態を見極めながら、最適な漢方薬を使い分ける、いわゆる「オーダーメイド」な治療薬といえます。

そのため、同じ病気でも患者さんの状態によって薬が違ったり、ひとつの漢方薬が色々な病気に使われたりもします。

「一人ひとりの体質に合わせて」というのを、漢方の世界では「証」と言います。「証」とは患者さんの現わしている病状や所見を和漢診療学的なもの(気血水・五臓・六病位など)で評価し、統合して得られた診断名のことです。「証」に合わせて漢方薬を選ぶのでこの「証」を正しく見極めることが重要ポイントです。人によって漢方薬が「合う」「合わない」があるのは、この「証」が合っているか否かによります。したがって、同じ病気でも「証」によって薬が変わることもあります。

### 《漢方薬の特徴は》

漢方薬の基本的な考え方は、「人が持っている病気を治す力(自然治癒力)・免疫力を高めることです。また、漢方薬には体質改善効果も期待できます。

この自然治癒力・免疫力を高め、体質改善効果もあることが漢方薬の特徴と言えます。例えば、長期に患っている慢性疾患に対して【表治】として病状を抑える薬を処方するだけでなく、長く服用し続けることにより【根治】として体質改善がおこり、根本的に病気が治ってしまうこともあります。

——例として、アトピー性皮膚炎を長く患っている方に【表治】の漢方薬で湿疹とかゆみを軽減し、且つ【根治】の漢方薬として【補剤】を組み合わせることにより、後に体質改善効果が現れ、アトピー体質が治ってしまう——

ということをよく体験します。

### 《漢方薬の副作用》

漢方薬の副作用は全くないとは言えませんが、もともと自然の植物等から作られている生薬なので、西洋薬(新薬)と比べれば格段に副作用は少ないといえます。

つまり適正な使い方をすれば、安全性の高い薬といえます。したがって、長期に薬を飲まなければいけない慢性疾患の方が、より副作用の少ない漢方薬に切り替えることが出来れば、それは最善の治療となります。

## 漢方薬の上手な使い方

漢方薬には適材適所にうまく取り入れる【コツ】があります。なんでもかんでも漢方薬ではなく、「いいタイミングでいい所」にうまく取り入れることによって治療を良い方向に導いてくれます。以下にいくつかの治療例を掲載いたします。

### ◎ケース1 アレルギー性鼻炎(花粉症)

幼児期からのアレルギー性鼻炎(花粉症)にて長期にわたり抗アレルギー剤を服用していたが、眠気が出るため学業にも支障が及ぶようになってきた。

そこで漢方薬の【小青竜湯】にて治療を行ったところ、眠気もなく鼻炎症状は治まり3年間服用したら体質改善により鼻炎(花粉症)が完全に治ってしまい、その後は症状がなくなったケース。

### ◎ケース2 気管支喘息

10年以上前からの気管支喘息の患者さんで、漢方薬を試したいと当院を訪れ、初めは西洋薬(新薬)と漢方薬の【柴朴湯】を併用しましたが、その後調子が良いため漢方薬のみに減らしました。

それでも全く発作もなく経過して、現在では何の薬もなしで、完治してしまったと考えられるケース。

### ◎ケース3 膀胱炎を繰り返す女性

泌尿器科にて「膀胱炎を繰り返す体質」といわれ、毎回抗生物質を投与されていた女性が当院に相談に来られました。

【猪苓湯】を処方したら、膀胱炎を起こさなくなり、比較的短期間内服した後に服薬をやめてみましたが、その後も膀胱炎を起こさなくなりました。

これも体質改善がおこったと考えられるケース。

### ◎ケース4 認知症の高齢者

認知症の高齢者の方で、認知症の周辺病状に対して【抑肝散】が効くという学会発表が最近よく見られます。当院でも、このような場合に積極的に【抑肝散】を処方すると著効する方があります。

### ◎ケース5 アトピー性皮膚炎で乳児期から苦しめられていた小児

ステロイド剤で良くなったり悪くなったりを繰り返していたが、ステロイド剤の長期使用による副作用が心配なため、インターネットの漢方薬サイトで当院を知り、ご相談に来られました。

【表治】の漢方薬で湿疹とかゆみを軽減しつつ【根治】として【補剤】も併用し、体質改善を期待したところ徐々に漢方薬を減らすことができ、最終的には期待どおり薬が無くてもアトピー性皮膚炎が治ったケース。

### ◎ケース6 水いぼを繰り返す小児

繰り返す小児の水いぼ(伝染性軟属腫)に対して、昔ながらのセッションで切除する方法は痛みを伴い残酷なため、最近では漢方薬の内服で水いぼが消退していくかを試す方法をお勧めしています。

切除では再発すると何度も取らなければいけません。漢方薬を内服していると、徐々に水いぼが減っていき最終的にはなくなってしまうことも多く、その後再発せず完治するケースも多いです。

### ◎ケース7 肥満に対する処方

メタボリック症候群との関連で、肥満に対する漢方薬の処方も行っています。肥満に対して唯一効果を認められている漢方薬は【防風通聖散】があります。

ただし、この漢方薬の効き目だけでなく肥満が解消することはありません。食事療法・運動療法との併用で効果が出ることを十分に理解してください。

食事・運動+【防風通聖散】で、実際に体重の減っているケースは数多くあります。

### ◎ケース8 更年期障害に対する処方

更年期の女性には、多彩な症状が一度に出てくるのがよくあります。更年期障害に対する漢方薬は、有名なものはいくつかありますが「証」が合えば1種類の漢方薬で全ての症状がスッと解消するケースもあります。

## まとめ

※以上の【まとめ】として、漢方薬の上手な使い方について総括します。

☆慢性疾患で長期にわたり内服治療を要する場合に、より副作用が少なく、かつ体質改善効果もある漢方薬を希望される方々が遠方からも来院されています。

☆漢方薬は、いくつかの成分(生薬)が助け合って働くことで、多彩な症状にマイルドに作用します。よって、たくさんの症状に対して多くの薬を飲んでいてる方の場合、1つの漢方薬でいくつかの症状が改善され、結果的に薬を減らすことが出来ます。

☆長年苦しめられてきた症状が、角度を変え漢方薬のアプローチにより、改善することも良く経験します。

☆漢方薬を上手に取り入れることにより、何よりも治療の幅が広がります。選択肢が多くなるので「困った時」に助けられることが多々あります。

実際に「他の医療機関で改善せず困っている」という相談を受けた時に、漢方薬を試みるとよく効く事があります。

当院では、長年にわたり漢方薬を取り入れています。困った時に漢方薬を処方した時に、患者さんも私自身も驚くほど症状が良くなっていくことを、たびたび経験しています。